

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年9月26日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400265		
法人名	社会福祉法人 ふるさと会		
事業所名	グループホーム 福寿の家		
所在地	高知県吾川郡いの町中追2598番地1		
自己評価作成日	平成23年7月25日	評価結果 市町村受理日	平成23年9月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然景観に恵まれた観光施設跡を活かし、デイサービスセンター、グループホームを併設する「中追の里」は、地域で唯一の介護福祉事業を実施しており、地域に支えられ、地域を支えていく介護福祉ゾーンの形成を目指し、高齢化が進む過疎地域の中で、公民館で行われるルンルン若返る体操に参加したり、季節に応じた住民参加の祭りを実施して日頃から交流を深めている。また、民生児童委員や地区長の方々の協力を得ながら運営推進会議等を通じて、これからの地域活性化も含めて話合っている。ホームでは、利用者が豊富な自然の中で、様々な活動や家事等の共同作業を通じて、楽しく、生き生きと暮らし、ホーム内に籠ることなく、できるだけ外に出て交流を深め、生きがいを持って元気に過ごしてもらうことを目標に掲げ、支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3972400265&amp;SCD=320&amp;PGD=39">http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3972400265&amp;SCD=320&amp;PGD=39</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年9月6日

事業所は、自然に恵まれた渓谷沿いに立地しており、利用者は四季折々の景観を満喫しながら暮らしている。事業所では、新緑や紅葉の時期に合わせて地域との交流事業を企画し、地域の小学生や女性クラブなどのボランティアの協力を得るとともに、町内のみならず町外からも多くの参加がある。利用者は、併設のデイサービスセンターの利用者や公民館で実施しているルンルン若返る体操の参加者とも交流している。また、利用者のケアに当たっては、これまでの暮らしを大切にしたい外出支援を重要課題としており、ドライブを兼ねて買物や外食に出かけたり、かつての職場や住まい、思い出の場所などに出かけることで、これまでの人や場所との関係継続や利用者の地域での暮らしの支援につなげている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: 1 階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、基本目標をホーム内に掲示し、全職員が常に理念を念頭に利用者に向き合いながら日々の実践をしている。	利用者のこれまでの人生を大切に、生き甲斐と喜びにつなげる理念を作成している。月2回のユニット会や3カ月毎のカンファレンスなどを通してケアを振り返り、外出や得意なことを活かしながら利用者の豊かな暮らしを支援している。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節に応じたホームの行事に多数の地域住民が参加し、利用者との交流を深めている。また、公民館で一緒に体操したり、地域一斉清掃などにも参加し、共に汗を流している。	事業所の新緑祭りや紅葉祭りには、模擬店やこども落語などのボランティアの協力も得て、地域や町外から多くの参加者があり、利用者で交流している。また、ルンルン若返る体操やデイサービスセンターの利用者と交流したり、住民から野菜作りの助言を得るなどしている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が買物や外食などに出かけたり、ホームの行事等の機会を通じて地域住民と交流し、認知症の理解を深めている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営や利用者の状況等の報告を詳細に行い、利用者、家族の代表や地域、行政分野の委員から様々な意見を出してもらい、サービス向上に活かしている。	利用者の状況や活動内容について説明し、参加委員から活発な意見等が出され、サービスの向上に活かしている。評価結果等についても報告しているが、議事録からは確認できない。	自己評価や外部評価で明らかになった課題等への対応や経過についても報告し、さらに運営推進会議を活かした取り組みを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当課の職員に運営推進会議に参加してもらったり、地域包括支援センターと常に連絡を取り、協力関係を築いている。また、町主催の事例検討会等の勉強会にも積極的に参加するようにしている。	地域包括支援センター主催の町内グループホーム連絡会で事例検討をしたり、運営推進会議を通して事業所の実情を担当課に理解してもらうなど、日頃から気軽に相談等ができる関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の研修会等に参加して身体拘束をしないケアについて勉強するとともに、ホーム内でも職員間で話し合っている。日中は玄関には鍵をせず、利用者には安全に配慮しながら敷地内で自由に暮らしてもらうようにしている。	身体拘束に関する研修会に参加し、伝達講習を通して職員の理解を深めるとともに、言葉による抑制についても日頃から話し合い、注意し合っている。外出傾向のある利用者には自由に外出してもらい、一緒に敷地内の散歩に同行し、納得してもらうまで見守りながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会等に参加して、理解を深め、職員に周知するとともに、軽微な異常も見過ごすことのないように努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会、研修会に参加して学習するとともに、必要に応じて行政担当者の助言も得ながら、制度を活用するよう支援している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や支援内容について、十分時間をかけて説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を置いたり、第三者委員を委嘱するなど、いつでも意見や要望を出してもらうようにしている。また、折にふれて意見や要望を気軽に提出してもらうよう、便りなどを通じて呼びかけている。	事業所が遠隔地にあることから、家族の来訪も限られているが、2カ月毎の通信や運営推進会議の議事録を送付したり、電話で利用者の状況を報告し、ケアの相談などもしている。また、利用者の身だしなみや居室のレイアウト、特別食などの要請に応え、サービスにつなげている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会を通じて職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるとともに、いつでも相談等に応じている。意見等は検討し、必要に応じて法人の主任会で話し合ったり、稟議書で伺いながら現場に取り入れている。	ユニット会や職員会の機会を捉えて職員の意見や提案を聞いている。必要に応じて法人に相談するなどしながら、便器サイドに跳ね上げ式の手摺りを設置したり、畑の土壌改良など、運営に反映させている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の完全消化や休憩時間の確保など、職員が働きやすい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の資格取得を勧めたり、機会あるごとに内外の研修会へ参加できるように勤務扱いにするなど配慮し、職員資質の向上を目指している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の勉強会等に参加したり、他の事業所との交流を通じてサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや生活環境、ふるさとの思い出等を十分聞き、職員間で共有するとともに、信頼関係づくりに心がけている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分話し合う時間をとり、家族の思いや要望をしっかりと聞くとともに、より良い関係づくりに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望等をしっかりと聞き、必要なサービス提供の検討や対応をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と共に生活を築き上げていくことを常に念頭におきながら、家事や作業を一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事への参加、電話連絡などを通して利用者の状況を共有し、共に本人を支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の仕事仲間の方が面会に来てくれたり、ふるさと訪問や思い出の場所に出かける機会を多く設け、これまでの関係が継続できるように支援している。	知人の来訪を受けたり、家族の協力で知人に会いに行くなど交流している。また、ドライブがてら住居の周辺やかつての職場を訪れたり、お四国詣りに行くなど、これまでの関係が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の人間関係に配慮しながら、仲良く、楽しく、互いに支え合っていく関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、できるだけ関係を保ち、支援するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や表情などから、その思いや意向を把握するようにしている。本人からの表出がない場合には声かけしたり、家族から話をきくなどして個別支援につなげるよう検討している。	日常の言動から利用者の思いや希望を把握している。困難な場合は、家族からの情報や生活歴等を念頭に声かけして思いを汲み取るなど、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境、サービスの利用状況などを把握するとともに、入居後も本人との会話や家族等から情報を把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通して、利用者一人ひとりの暮らし振りやできることのほか、心身の状態などの現状の把握に努め、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの状況に応じた課題やケアについて検討し、本人に最も適切な介護計画を作成するように努めている。	利用者、家族の意向を聞くとともに、介護記録や職員の気づき等を踏まえ、3カ月毎にモニタリングを行い、ケア会議を通して介護計画を作成している。利用者の状況に変化があった場合はその都度見直している。また、計画更新時のアセスメントのあり方について課題意識を持ち、取り組んでいる。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や職員の気づきなどを記録し、職員間で共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合に応じて通院支援をしたり、県外在住の家族が来訪した際には、利用者と一緒に宿泊してもらうなど、柔軟に支援している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や地区長に運営推進会議を通して協力してもらったり、小学生のクラブ活動や女性クラブとの連携、消防署の指導を得ながら、行事、祭り等を通じて、日々楽しく、安全で豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や歯科医師の往診で健康維持の環境を作るとともに、急変時には職員が病院受診等の支援をしている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医で受診しており、協力医による月2回の往診も受けている。通院介助は家族対応を基本としているが、家族と連絡を取り合いながら職員が対応している。受診結果は、家族に確認するとともに、記録を通して職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護職と連携して健康維持に努めるとともに、利用者の状態等に応じて適切な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、主治医や医療相談員との情報共有に努め、退院見込みや支援方法について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの対応方針について説明し、十分な理解が得られるようにしている。また、利用者の状況に応じて、立地条件(遠隔地)などを踏まえ、ホームでの支援の限界について理解をお願いし、家族の協力を得るようにしている。	重度化対応や看取りに関する指針を作成しており、入居時や利用者の状態に応じてその都度家族等と話し合っている。これまで事業所での看取りの事例もあるが、最近では医療機関で終末期を迎える事例があり、事業所として対応できる支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修に参加したり、ヒヤリハットなどの内容も法人内で共有している。また、消防署に依頼して定期的に救命救急訓練を行うなど、実践できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風等の際には事前に職員配置をするなどの災害対策を講じている。溪流が増水した場合は、隣接のデイサービスセンターの2階に避難するようにしている。防火避難訓練は消防隊員の指導のもとに定期的実施している。民家から離れており地域住民の協力等は困難な実態がある。	年2回、消防署の指導により防災訓練を実施している。遠隔地にあるため地域住民の協力が得られない環境にあるが、日頃から職員の防災意識を高めるとともに、避難場所や経路の確認、1週間程度の飲料水、食料を準備するなど、災害対策に取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その人らしい生活が維持できるように配慮するとともに、排泄支援などの機会を捉えて職員間で利用者の尊厳について話し合っている。	利用者の尊厳を何より重んじることを理念に掲げ、排泄支援などのケアの場面では、他の利用者に気づかれないよう、さりげなく対応したり、利用者の人格や誇りを大切に言葉遣いに気をつけるなど、日頃から話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し、本人の希望することが表明でき、決定できるよう、声かけしたり、場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や特技、趣味などを大切に、毎日が楽しく過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を第一として、服装や身だしなみに気を配り、本人に合ったおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事を提供するとともに、食事の準備や配膳、下膳、食器洗い等、利用者ができることを一緒にするように声かけし、食事の時間を楽しんでもらうよう支援している。	利用者の食べたい物を聞きながら、ユニット毎(1階、2階)に異なる食事メニューを提供している。利用者は調理の下ごしらえや食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じ物を食べながら和やかな雰囲気づくりに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の持病や心身の状態等に配慮しながら、十分な食事や水分量の摂取ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全員の口腔ケアを実施しており、必要に応じた介助もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの習慣に応じて、声かけしたり、時間誘導を行い、排泄の失敗がないように援助するとともに、夜間の巡視時にも時間をみてトイレ誘導をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はできるだけトイレで排泄するよう支援している。尿意の素振りなどから早め早めの誘導で失禁の改善がみられ、排泄用品のコスト削減につなげている。また、夜間のみポータブルトイレを使用するなど、個別に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の大切さを理解して、機会ある毎に水分を取るとともに、散歩や体操などの適度な運動も行いながら、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望する日や時間帯をできるだけ尊重し、楽しんで入浴できるよう支援している。	15時頃から夕食前を入浴の時間帯としており、毎日入浴している利用者もいるが、2日に1回は入浴できるよう支援している。また、利用者の希望等に応じて午前中や夜間に入浴できるよう柔軟に対応したり、拒否のある場合は、浴室で歌を歌うなど気分よく入浴してもらう工夫もしている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの心身の状態を把握し、十分な睡眠や休息がとれるよう援助している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりの服薬情報を把握し、申し送りや職員会で再確認したうえで、確実に服薬の支援を行い、症状の変化も見逃さないようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの思いをしっかりと受け止め、日々を生きがいをもって楽しく過ごせるよう援助している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	敷地内を日常的に散歩するほか、買物や外食、ふるさと訪問など、利用者の希望に沿った外出支援を地域での暮らしの基本として捉え、家族の協力も得ながら支援している。	利用者は、毎日事業所周辺を散歩したり、月3回の買物を楽しみにしている。また、事業所では遠隔地にある立地環境の中で、利用者の希望に沿って、公民館行事や外食に出かけたり、ドライブがてら人や場所との馴染みの関係を継続するなど、外出支援を通して利用者の地域での豊かな暮らしにつなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談してホームで預かったり、小遣い程度の金額を利用者自身で保管している。外出した際には、本人の希望する買い物が楽しむことができるように援助している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望したり、職員が声かけするなどして、家族等に電話をしたり、手紙を出すように支援している。また、折に触れて、家族に連絡してもらうように依頼している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激がなく、気持ちよく過ごせるよう利用者の意向を聞くとともに、室温や湿度に配慮して快適に過ごせるよう工夫している。また、テレビやソファの配置にも工夫し、行事の際の利用者の顔写真を貼るなどして、居場所づくりにつなげている。	ホールは、食堂兼居間と対面式の厨房として活用している。壁面にはさりげなく季節の紙細工や行事や外出時の写真を貼るなど、共同生活の中で家庭的な雰囲気づくりに配慮している。また、敷地全体が自然豊かな渓谷であり、利用者は四季折々の移ろいを窓越しに眺めたり、遊歩道を散歩しながら季節を満喫している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ利用者同士が仲良く交流でき、楽しく過ごせるよう、テレビやソファ、食卓などの配置を考え、支援している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者お気に入りのなつかしい写真を飾るとともに、馴染みの家具等も持参してもらい、居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室は、宿泊施設の客室を改修したもので、広さや形状もそれぞれ異なるが、利用者の希望等に応じて畳敷きやフローリングにしている。利用者は整理タンスなどの家具のほか、家族写真や絵画、テレビや冷蔵庫などを持ち込み、それぞれ個性があり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に大きな表札を掲示したり、トイレや浴室も利用者に場所が一目でわかるように表示をするなど、利用者が迷わず安全に過ごせるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: 2 階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、基本目標をホーム内に掲示し、全職員が常に理念を念頭に利用者に向き合いながら日々の実践をしている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節に応じたホームの行事に多数の地域住民が参加し、利用者との交流を深めている。また、公民館で一緒に体操したり、地域一斉清掃などにも参加し、共に汗を流している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が買物や外食などに出かけたり、ホームの行事等の機会を通じて地域住民と交流し、認知症の理解を深めている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの運営や利用者の状況等の報告を詳細に行い、利用者、家族の代表や地域、行政分野の委員から様々な意見を出してもらい、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当課の職員に運営推進会議に参加してもらったり、地域包括支援センターと常に連絡を取り、協力関係を築いている。また、町主催の事例検討会等の勉強会にも積極的に参加するようにしている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内外の研修会等に参加して身体拘束をしないケアについて勉強するとともに、ホーム内でも職員間で話し合っている。日中は玄関には鍵をせず、利用者には安全に配慮しながら敷地内で自由に暮らしてもらうようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会等に参加して、理解を深め、職員に周知するとともに、軽微な異常も見過ごさずすることのないように努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会、研修会に参加して学習するとともに、必要に応じて行政担当者の助言も得ながら、制度を活用するよう支援している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や支援内容について、十分時間をかけて説明し、理解と納得を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を置いたり、第三者委員を委嘱するなど、いつでも意見や要望を出してもらおうようにしている。また、折にふれて意見や要望を気軽に出示してもらおうよう、便りなどを通じて呼びかけている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会を通じて職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるとともに、いつでも相談等に応じている。意見等は検討し、必要に応じて法人の主任会で話し合ったり、稟議書で伺いながら現場に取り入れている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇の完全消化や休憩時間の確保など、職員が働きやすい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の資格取得を勧めたり、機会あるごとに内外の研修会へ参加できるように勤務扱いにするなど配慮し、職員資質の向上を目指している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の勉強会等に参加したり、他の事業所との交流を通じてサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや生活環境、ふるさとの思い出等を十分聞き、職員間で共有するとともに、信頼関係づくりに心がけている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と十分話し合う時間をとり、家族の思いや要望をしっかりと聞くとともに、より良い関係づくりに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望等をしっかりと聞き、必要なサービス提供の検討や対応をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と共に生活を築き上げていくことを常に念頭におきながら、家事や作業を一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事への参加、電話連絡などを通して利用者の状況を共有し、共に本人を支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の仕事仲間の方が面会に来てくれたり、ふるさと訪問や思い出の場所に出かける機会を多く設け、これまでの関係が継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の人間関係に配慮しながら、仲良く、楽しく、互いに支え合っていく関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、できるだけ関係を保ち、支援するよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や表情などから、その思いや意向を把握するようにしている。本人からの表出がない場合には声かけしたり、家族から話をきくなどして個別支援につなげるよう検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境、サービスの利用状況などを把握するとともに、入居後も本人との会話や家族等から情報を把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通して、利用者一人ひとりの暮らし振りやできることのほか、心身の状態などの現状の把握に努め、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの状況に応じた課題やケアについて検討し、本人に最も適切な介護計画を作成するように努めている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や職員の気づきなどを記録し、職員間で共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合に応じて通院支援をしたり、県外在住の家族が来訪した際には、利用者と一緒に宿泊してもらうなど、柔軟に支援している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や地区長に運営推進会議を通して協力してもらったり、小学生のクラブ活動や女性クラブとの連携、消防署の指導を得ながら、行事、祭り等を通じて、日々楽しく、安全で豊かな生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や歯科医師の往診で健康維持の環境を作るとともに、急変時には職員が病院受診等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護職と連携して健康維持に努めるとともに、利用者の状態等に応じて適切な指示をもらっている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、主治医や医療相談員との情報共有に努め、退院見込みや支援方法について話し合っている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームの対応方針について説明し、十分な理解が得られるようにしている。また、利用者の状況に応じて、立地条件(遠隔地)などを踏まえ、ホームでの支援の限界について理解をお願いし、家族の協力を得るようにしている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修に参加したり、ヒヤリハットなどの内容も法人内で共有している。また、消防署に依頼して定期的に救命救急訓練を行うなど、実践できるようにしている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風等の際には事前に職員配置をするなどの災害対策を講じている。溪流が増水した場合は、隣接のデイサービスセンターの2階に避難するようにしている。防火避難訓練は消防隊員の指導のもとに定期的実施している。民家から離れており地域住民の協力等は困難な実態がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、その人らしい生活が維持できるように配慮するとともに、排泄支援などの機会を捉えて職員間で利用者の尊厳について話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し、本人の希望することが表明でき、決定できるよう、声かけしたり、場面づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や特技、趣味などを大切に、毎日が楽しく過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を第一として、服装や身だしなみに気を配り、本人に合ったおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食事を提供するとともに、食事の準備や配膳、下膳、食器洗い等、利用者ができることを一緒にするように声かけし、食事の時間を楽しんでもらうよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の持病や心身の状態等に配慮しながら、十分な食事や水分量の摂取ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全員の口腔ケアを実施しており、必要に応じた介助もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの習慣に応じて、声かけしたり、時間誘導を行い、排泄の失敗がないように援助するとともに、夜間の巡視時にも時間をみてトイレ誘導をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の大切さを理解して、機会ある毎に水分を取るとともに、散歩や体操などの適度な運動も行いながら、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望する日や時間帯をできるだけ尊重し、楽しんで入浴できるよう支援している。		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの心身の状態を把握し、十分な睡眠や休息がとれるよう援助している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者一人ひとりの服薬情報を把握し、申し送りや職員会で再確認したうえで、確実に服薬の支援を行い、症状の変化も見逃さないようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの思いをしっかりと受け止め、日々を生きがいをもって楽しく過ごせるよう援助している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	敷地内を日常的に散歩するほか、買物や外食、ふるさと訪問など、利用者の希望に沿った外出支援を地域での暮らしの基本として捉え、家族の協力も得ながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談してホームで預かったり、小遣い程度の金額を利用者自身で保管している。外出した際には、本人の希望する買い物が楽しむことができるように援助している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望したり、職員が声かけするなどして、家族等に電話をしたり、手紙を出すように支援している。また、折に触れて、家族に連絡してもらうように依頼している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激がなく、気持ちよく過ごせるよう利用者の意向を聞くとともに、室温や湿度に配慮して快適に過ごせるよう工夫している。また、テレビやソファの配置にも工夫し、行事の際の利用者の顔写真を貼るなどして、居場所づくりにつなげている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できるだけ利用者同士が仲良く交流でき、楽しく過ごせるよう、テレビやソファ、食卓などの配置を考え、支援している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者お気に入りのなつかしい写真を飾るとともに、馴染みの家具等も持参してもらい、居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に大きな表札を掲示したり、トイレや浴室も利用者に場所が一目でわかるように表示をするなど、利用者が迷わず安全に過ごせるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				